

中等教育研究開発室年報 第32号（2019年3月31日発行）別冊電子版
2018年度 授業実践事例

国語科 中学校第1学年

「少年の日の思い出」（ヘルマン＝ヘッセ）
ー語りの構造を踏まえてー

授業者 三根 直美

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校 国語科 学習指導案

指導者 三根 直美

日時 平成30年10月13日(土) 第1限 9:30~10:20
場所 第4研修室
学年・組 中学校1年B組 40人(男子19人 女子21人)

単元 語りの構造を踏まえて読む

教材 「少年の日の思い出」(ヘルマン=ヘッセ) 「中学校国語1」(学校図書)所収

目標 1. 登場人物や情景などの描写を捉え、内容を正確に読み取る。
2. 語りの構造に着目することを通して、小説を分析的に読む。
3. 作者のものの見方・考え方にふれて、自分のものの見方・考え方を広げる。

指導計画(全10時間)

第一次 初読後、予想外の行動に線を引かせて書かせた上で発表させ、全体で共有する。(1時間)

第二次 「僕」や「エーミール」の予想外の行動、「客」の予想外の行動など、それぞれについてなぜそのような行動をとったのかを考え、解明していく。(個人→グループ→全体)
(8時間 本時はその8時間目)

第三次 作者がこの話を書いた意図について、文章にまとめる。ワークシートで自分の読みの変容を振り返る。(1時間)

授業について

国語科における「深い学び」は、「言葉による見方・考え方」を働かせようとすることで実現される。「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」を授業の中で組み入れていくことが必要であるのだ。

生徒はえてして小説を全体から受ける印象で読む傾向にある。「少年の日の思い出」の授業において、まず登場人物たちの予想外の行動に着目することで、小説を読む際の道標を自分で持つことができるだろう。そして、その行動の理由を考えていく中で、細かな叙述に着目することになり、それは深い読みを生み出していく。さらに、僕とエーミールの描かれ方の違いや、語りの構造(半額縁構造)に着目し、作者がそのような手段をとった意図・効果を考えていくことは、小説を分析的に読むことへとつながっていくだろう。

また、「エーミール」のことを語っている「僕」のものの見方・考え方を捉えたり、「エーミール」から見た「僕」の人物像を比較・検討していき、最終的には作者のものの見方、考え方につなげていくことで、生徒のものの見方・考え方を広げていくきっかけとなるに違いない。

評価としては、自己評価も取り入れる。根拠を明確にしながら自分の考えを文章化し、それをグループや全体で交流し、課題解決に向かう際、読みの変容が一覧できるようなワークシート(思考メモ)を用いていく。

題目 「少年の日の思い出」(ヘルマン=ヘッセ)—語りの構造を踏まえて—

本時の学習目標

1. 語りの構造に着目することを通して、分析的に読む姿勢を身に付ける。
2. グループ内やクラス全体で考えを交流する際、そう考えた根拠を明確に説明したり、検討できるようにする。

本時の評価規準(観点/方法)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・描写を注意深く読んだり、他者と課題を話し合ったりする活動を通して、自分のものの見方・考え方を広げようとしている。	・場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てている。 ・語りの構造を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。	・情景描写・比喩表現などについて、理解して読んでいる。

本時の学習指導過程

学習内容	指導上の留意点・評価	評価の観点と方法
<p>〈導入〉 前時の振り返りをする。</p> <p>〈展開〉</p> <p>1 「客」はなぜ嫌な思い出である話を「私」に語ったのかを考える。</p> <p>2 「私」の役割は何かを考える。</p> <p>3 この語りの構造は、読者にどんな効果を与えるかを考える。</p> <p>〈まとめ〉 次時は、作者がこの話を書いた意図について文章を書くことを聞く。</p>	<p>○前時に、個人で「客」が「私」に語った理由について考えたことを伝える。</p> <p>○「客」が「私」に語った理由について、グループ→全体の流れで解明していく。 ○必ずそう考えた根拠を挙げさせ、検討していく。</p> <p>○「客」の語った話を「私」が聞き、「私」がそれを書いたことを把握する。 ○それを読んだ「客」はどう感じたのかも考える。</p> <p>○読者が受けるに違いない実感から、確認していく。</p>	<p>・情景描写・比喩表現などについて、理解して読んでいる。(発言・記述の確認・ワークシート・ノート)</p> <p>・語りの構造を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。(発言・記述の確認・ワークシート・ノート)</p>
備考		

「少年の日の思い出」(ヘルマン・ヘッセ)

授業資料

2018 / 10 / 13

広島大学附属中・高等学校

国語科

三根直美

資料

- 1 使用したワークシート 資料A、資料D
- 2 全授業過程での板書

授業過程(全十時間)

- 1 各自で通読後、登場人物の「予想外の行動」を書き出す。(資料A)言葉の意味調べの指示。
- 2 「予想外の行動」を発表し合い、まとめる。担当した言葉の意味を書き入れる(資料B)。
- 3 「予想外の行動」一覧(左の資料)・言葉調べのワークシートの配布。僕の「予想外の行動」③について全体で考え、まとめる。言葉に注目して読む方法の提示。【板書】
- 4 僕の「予想外の行動」④について、個人↓グループ↓全体で考える。(資料C)以降、思考メモを使っていく。【板書】
- 5 僕の「予想外の行動」⑤について、個人↓グループ↓全体で考える。【板書】
- 6 僕・母の「予想外の行動」⑥⑦⑩⑪について、個人↓グループ↓全体で考える。【板書】
- 7 僕・エーミールの「予想外の行動」⑧⑫⑬について、個人↓グループ↓全体で考える。【板書】
- 8 僕の「予想外の行動」⑨について、個人↓グループ↓全体で考える。【板書】
- 9 客の「予想外の行動」①②について、グループ↓全体で考える。【本時】
- 10 「作者がこの話で伝えたかったことは何か」について、個人が文章にまとめる。今までの学習を振り返る。【資料D】

■登場人物の「予想外の行動」一覧

客

① ちようの収集を見せて欲しいと言ったのに、「もう、結構」といつて見るのをやめた。

② 不愉快で恥ずかしい思い出であるのに、「私」に話した。

僕

- ③ ちよう集めのとりこになったこと。あまりの熱心さにみんなが僕に何度もやめさせようと思うほどだったこと。
- ④ みんなに内緒にしていたのに、せめて隣の子だけには見せようと思った。
- ⑤ やままゆがをせめて見てみたいというだけだったのに、ノックをして不在なのに勝手に部屋に入って盗んだ。盗んだ後も満足感しか感じていなかった。ポケットにつっこんだ。
- ⑥ 盗んだことよりも、美しいちようをつぶした方が苦しさが勝っている。
- ⑦ 母にすべてを打ち明けたこと。
- ⑧ エーミールへの謝り方がすぐあやまっていた。
- ⑨ 大切にしていたちようちよを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった。

母

⑩ 僕の告白を怒ることもなく、悲しみ、論じた。

⑪ 帰ってきた僕に根堀り葉堀り聞かなかった。

エーミール

- ⑫ 激したり、僕を怒鳴りつけず、罵りもせず、ただ軽蔑していた。
- ⑬ 償いを願った僕に対して、許さずはねのけた。

「少年の日の思い出」(ヘルマン・ヘッセ)

1年B組()番 名前()

■登場人物の「予想外の行動」を挙げてみよう。

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①

少年の日の思い出【ヘルマン＝ヘッセ】言葉調べ①

ページ	語句	意味
p222・1 行	書斎 【 】	
p222・2 行	色あせる 【 】	
p223・1 行	きらびやか 【 】	
p223・4 行	ごく 【 】	
p222・9 行	そそられる 【 】	
p223・10 行	熱情的 【 】	
p223・16 行	巻きたばこ・葉巻 【 】	
p224・1 行	無論 【 】	
p223・16 行	おりおり 【 】	
p223・17 行	食べる 【 】	

○	○	問題
		自分の考え
↓	↓	グループの考え
↓	↓	クラス全体でのまとめ

1年B組()番 名前()

「少年の日の思い出」(ヘンマン＝ヘッセ)

1年B組() 番 名前()

■ 作者(ヘルマン＝ヘッセ)がこの話を書いたのはなぜか。あなたの考えを書きましよう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

■ 「少年の日の思い出」の授業を振り返って、

① 「予想外の行動」を挙げて、考えた点について

--

② 思考メモのワークシートを使って、個人↓グループ↓全体で考えた点について

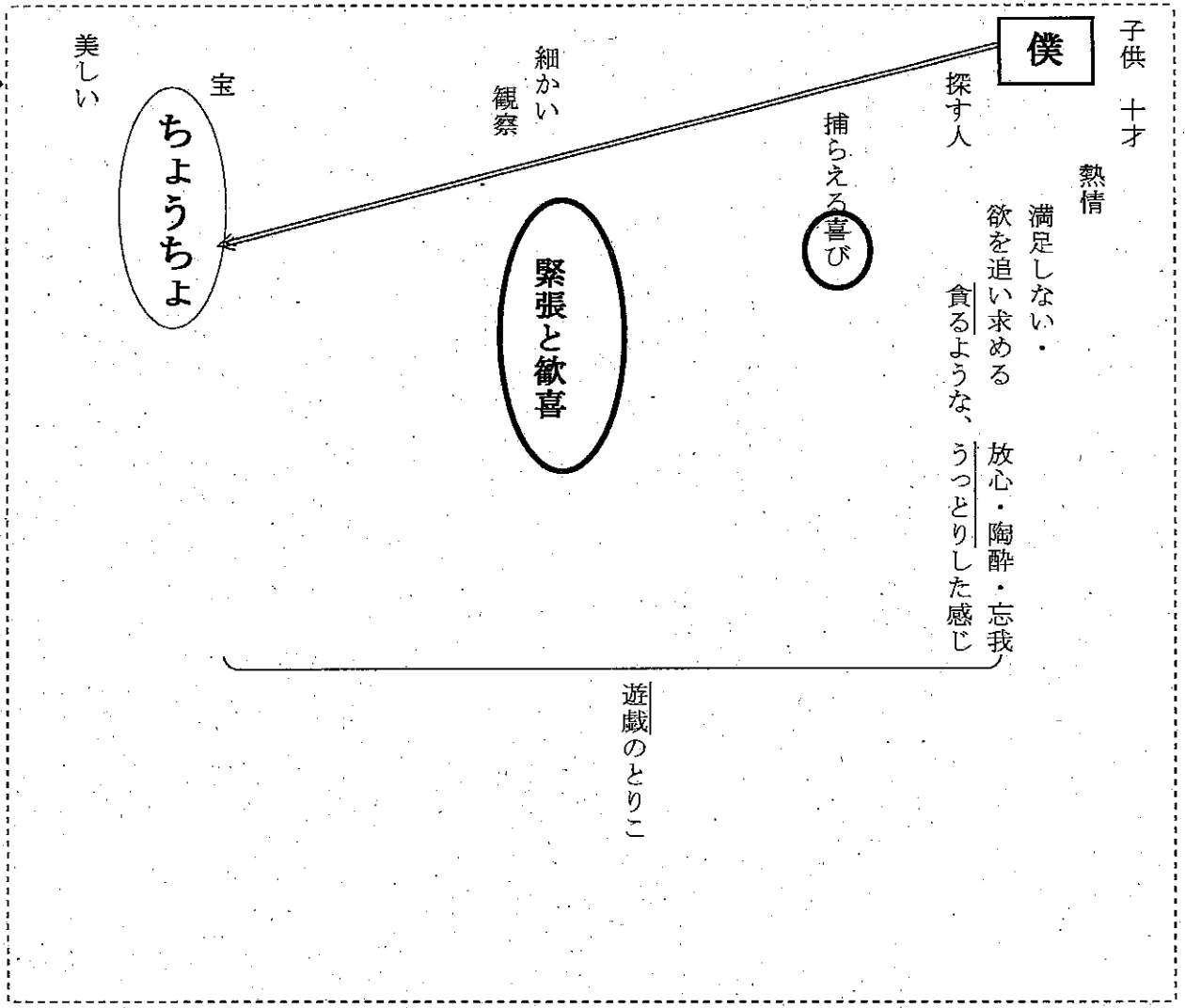
--

③ 自分の最初の読みは変わりましたか。

--

【3時間目の板書】

③僕がちよう集めに夢中になった理由



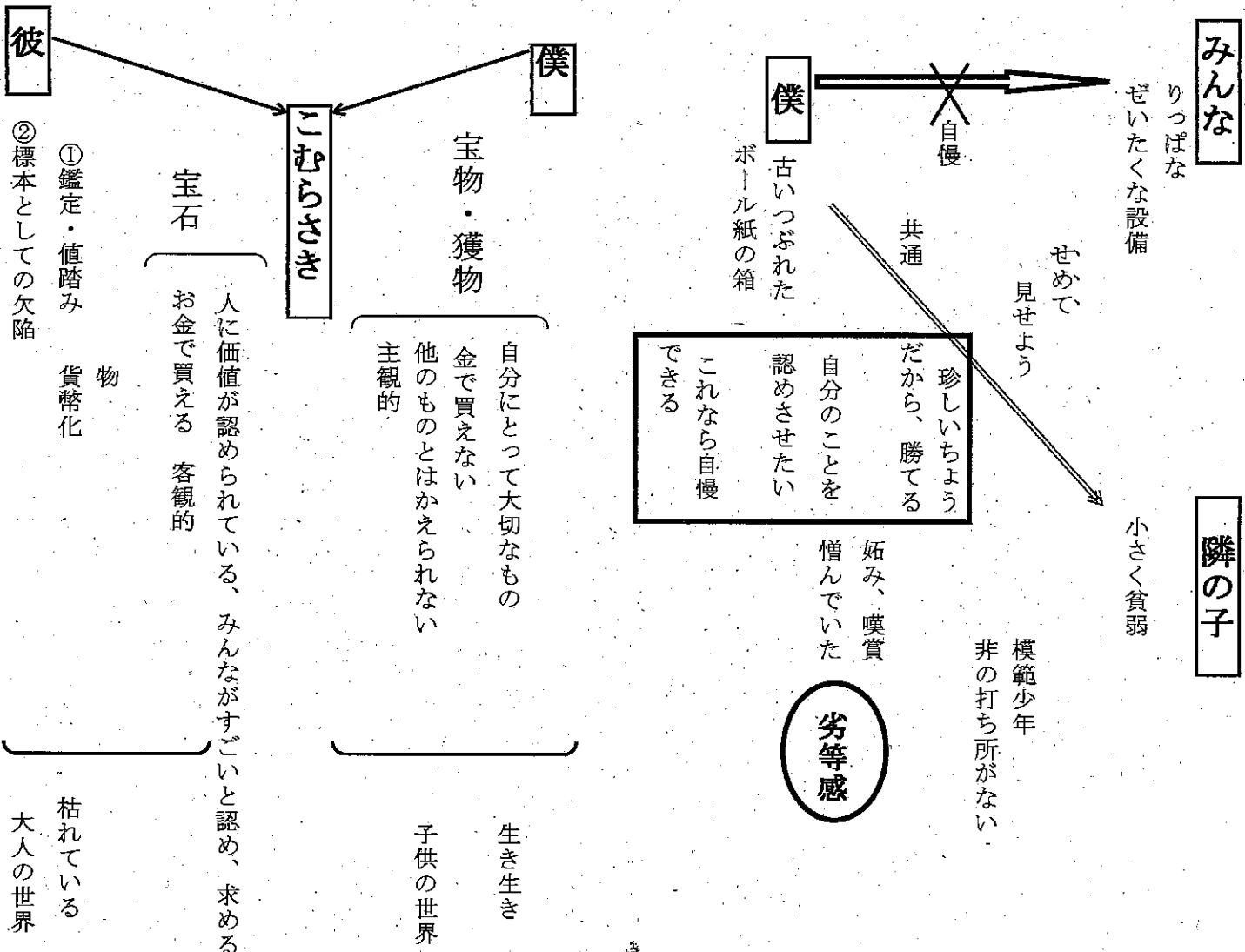
大人 **僕**
語る

今でも...
その後、...感じたことがない

微妙な喜び + 激しい欲望

【4時間目の板書】

④みんなには内緒なのに、せめて隣の子にだけはみせようと思った理由



彼

①鑑定・値踏み
②標本としての欠陥

僕

宝物・獲物

こむらさき

宝石

人に価値が認められている、みんながすごいと認め、求める
お金で買える 客観的

貨幣化

枯れている

大人の世界

僕

古いつぶれた
ボール紙の箱

共通

珍しいちようだから、勝てる
自分のことを認めさせたい
これなら自慢できる

妬み、嘆賞
憎んでいた

劣等感

みんな

りっぱな
ぜいたくな設備

せめて
見せよう

小さく貧弱

隣の子

模範少年
非の打ち所がない

【5時間目の板書】
⑤盗みをした理由

エーミールがさなぎからかえした

誰にもあわなかった

中庭

エーミールの部屋 不在↓入る

社会規範侵す

やまゆがは一番ほしかったもの
挿絵でしか見たことがない

興奮

せめて例のちようを見たい

見られる興奮・気持ちの高ぶり
胸をどきどき

四つの大きな不思議な斑点が…僕を見つめた。

擬人法

魅了されている・とりこになっている

盗む

この宝を手に入れたいという、逆らいがたい
欲望

満足感

ちようと自分だけの世界

誰かの足音

現実の世界・善悪の世界

良心が目覚めた

罪悪感 弱い

下劣なやつ、恥ずべきこと、
自分自身におびえながら
どきどき

見つかりはしないか
元に戻して、何事もなかったようにしなくては
ならない

弱さ・こずるさ

ポケットに突っ込む

【6時間目の板書】

⑥盗みより美しいちようを潰したことが苦しい理由

盗みをした

苦しさ

自分が潰してしまった
美しい、珍しいちようを見る

元通り返せばわからない

罪悪感 軽い

美しさ
への冒瀆

もとに戻らない

ちようへの
強い情熱・思い

僕の存在理由
譲れない

⑦⑩⑪母と僕とのやりとり

エーミールとの関係を知らない

驚き悲しむ

交換可能

「埋め合わせに、より抜いてもらう
許して貰うよう、頼む」

すれ違い

僕

告白

罪の意識

美しいちようを自分の手で
壊してしまった苦しみ

他のものとは交換できない

エーミールは言っても許してくれない

【7時間目の板書】

⑧ 本当にあやまっているのか。

僕

盗んだ原因はちようの美しさにとりこになったせいだ
ということ

謝りに行くのをしるる……エミールはわかってくれない・全然信じようとしな
い 自分とはちようについて相容れない相手と認識

見せてくれ

すぐあやまらず

修繕のあとを見る → エミールへの罪悪感が少し出た



僕がやったのだ

詳しく話し、説明しようとして
試みた

おもちゃ→ちようの収集

低い 高い

事実・なりゆきのみ

「ごめんなさい」×

美しいちようをこわした後悔・悲しみ

⑫⑬ エミールの行動・言動の理由

エミール

悲しみ・怒り

下

軽蔑・あなどる

ちようを粗末に扱い、平気で人のものを盗む悪い

① そんなやつ

② 結構だよ。ちようの扱い方の否定

ののしり、攻撃的 同等

僕

僕の存在意義

ちように対する強い思い
を大切に思う気持ち

憎しみ

あいつに飛びかかる
ところ

【8時間目の板書】

⑨ ちようちよをつぶした理由

闇の中で
ちようちよを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰して
しまった

1 美しいちようをつぶした
自分への報復

2 このいまわしい出来事から
目をそらし、なかったことにしたい
現実逃避

3 エミールへの怒り
報復

4 怒りをぶつけられないまま
だったので、ちようにぶつけて
発散

5 自分にはちよう集めの資格が
ない

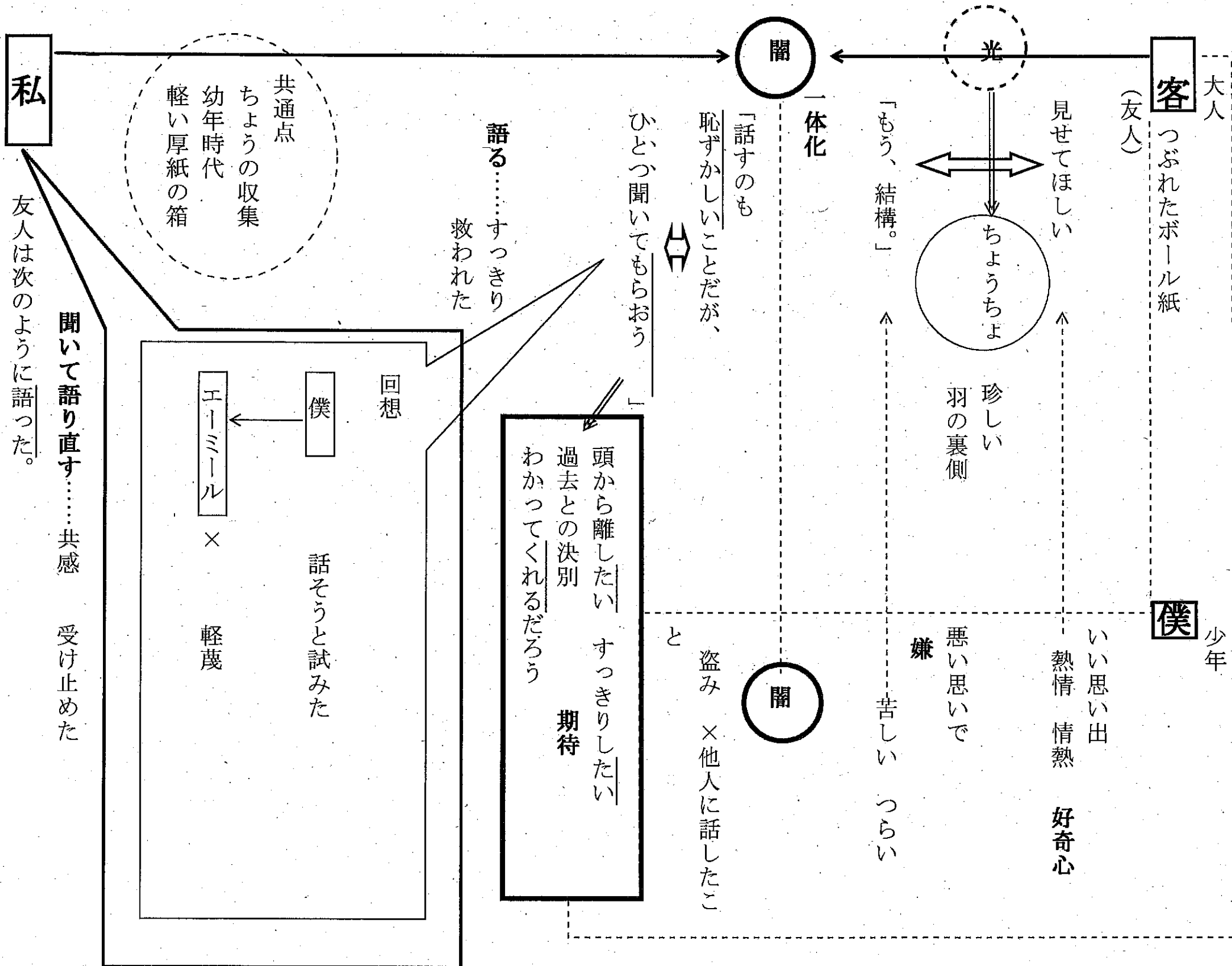
一度起きたことは、もう償いのできない

エミールに蔑まれたまま
何の救いもない
あいつに飛びかかるところ

エミールの言葉
ちようの扱い方への否定

【本時の板書】

- ① 客の言動の理由
- ②



実践上の留意点

「少年の日の思い出」は、全国の中学一年生が学習する定番中の定番教材である。何度実践を重ねても、アプローチの仕方によって生徒の反応が大きく変わる教材でもある。今回の主眼は、①生徒が「予想外の行動」と読み取った箇所から学習課題を設定し、その解決に際し思考メモを駆使していく授業スタイルを取ったこと ②最初の場面の読解を回想部分の読解を終えた後で行ったことだ。①について、初読後「予想外の行動」を挙げることから課題を設定した。これは山元（2018）が紹介する「Probstらは、『予想外の行動』を『最初に教える道標』だと言っている。」「『予想外の行動』という『道標』に目を向けることは、登場人物や設定やプロットの、読者がそれまで意識していなかった面を意識することになる。登場人物の内面の葛藤と変化、場面設定の特徴、そして書き手が作品に込めたメッセージなどを深く掘り下げる学習が可能になるだろう。」を参考にした。実際に中一段階で初めて出会う本格的な小説の学習として、読む視点が与えられて自身で課題を設定していくのに適していたと思われる。

さらに、個人→グループ→全体という学習活動の中で、思考の流れを記録する「思考メモ」も今回導入した。グループでの話し合いはなかなか難しく、他の人が多様な考えを持ち、自分とは違うことを知り得る機会としてはよかったが、そう考える根拠をグループ内で聞き合ったり、話し合うまでには至らなかった。そうなるには日頃から話し合う訓練を積み重ねていくこと、さらには話し合ったことによる達成感を味わう経験がいる。協議会でも話題となったが、話し合いを活性化していくことが今後の課題である。

②について、最初の客と僕の会話の場面は情景描写、客の言動の矛盾点など多くの要素が詰まっっていて、初めに学習するには難しいため、最後に回した。最初の学習課題は、「客はちょうの収集を見せてほしいと言ったのに、すぐにもう結構と言っている。話すのも恥ずかしいと言いながら、ひとつ聞いてもらおうと言っている。矛盾しているけれど、その理由を説明して。」である。前時に個人で思考メモに書き入れていたので、すぐにグループで確認し合い、発表させた。授業者が予想していたことはほとんど生徒から出たので、よい学習課題であると判断される。また、長い間心の中に封印し、誰にも話さなかったのに友人である私にはなぜ話したのか問い掛け、何か共通点があるからではないかと聞くと、幼年時代にちょうの収集をしていた、軽い厚紙の箱に収集していて、客が集めていたつぶれたボール紙と似通っているところも出た。さらに「光と闇がここには出てくるけれど、何か効果をあげているのか」と問い掛け、ちょうちょをクルーズアップしている、闇はちょうちょを一つひとつつぶした嫌な思い出と繋がっていて、客を外の闇と一体化させ、語りに集中させていく効果があることを押さえた。

客は私に語ることで、すっきりして過去と訣別したい、私ならわかってくれると期待したということが生徒から出た。最後に、「友人は次のように語った。」という所から、これは客の話の聞いて、私が語り直したものであると指導者側が押さえた後、なぜ語り直したのかと

問うと、私が受け止めたということが挙げられた。時間が足りなくて生徒と十分議論が尽くせなかったが、この押さえには賛否両論があろう。協議会でも、「そうとは取れない」「救われたのではない」という意見など、様々に挙げられた。また、研究授業後にこの小説を書いた作者の意図を問うワークシート(資料 D)を用意していたが、そこまで聞く必要はないという意見もいただいた。

これらの点に関しては、研究者の見解も分かれているところではあるが、私は授業では可能な範囲で生徒に無理のない読みが出来ればよいと思っている。定期テストで「後半の客の回想部分はどうして重要なのか。人はどういう時に回想するかを踏まえて答えよ。」という問いを出した。回想部分は、客の人生の中でずっと誰にも語れず、封印されていた過去を初めて明かすという重要な部分であり、作者が似たような体験をしていたり、身近にそういう存在がいたということを表している。

授業後に書かせたワークシート(資料 D)にある「自分の最初の読みは変わりましたか」という問いに対して、「客が語ったものを私が語り直したという視点を与えられたことで「最初の場面はあまり意味がないと思っていたが、多くのことがちりばめられているのがわかった」などの意見があった。初読では簡単に読み飛ばしていく点にどう引っかかって考えていくか、その読み方を体得していくのによい小説であろう。

参考文献

山元隆春, 「文学作品の『精読 (close reading)』の方法をどのように学ばせるか?—登場人物の「予想外の行動」を道標として—」, 『論叢 国語教育学 第 14 号』広島大学国語文化教育学講座, 2018